

平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年11月11日

上場会社名 ころネット株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6060 URL http://cocolonet.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 齋藤 高紀
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 安斎 紀之 TEL 024(573)6556
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日 配当支払開始予定日 平成25年12月2日
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
 四半期決算説明会開催の有無： 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満は切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績（平成25年4月1日～平成25年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	6,041	9.0	414	△29.5	458	△28.0	566	154.4
25年3月期第2四半期	5,542	—	588	—	636	—	222	—

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 608百万円 (189.7%) 25年3月期第2四半期 210百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	147.47	—
25年3月期第2四半期	64.16	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第2四半期	21,969	7,456	33.9	1,940.38
25年3月期	16,209	6,488	40.0	1,831.42

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 7,456百万円 25年3月期 6,488百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
26年3月期	—	15.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,633	20.3	1,004	8.4	1,053	△3.5	689	30.8	179.39

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社（社名）株式会社郡山グランドホテル、除外 1社（社名）－
詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年3月期2Q	3,843,100株	25年3月期	3,543,100株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	55株	25年3月期	55株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年3月期2Q	3,843,045株	25年3月期2Q	3,472,375株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づくレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11
4. 施行件数の状況	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日本銀行の金融政策を背景とした円安・株高傾向を受けて、企業業績は改善の動きがみられました。一方で、原油高や欧米諸国における財政問題等のリスクも存在し、国内の景気回復は緩やかなものとなりました。

当社グループの事業基盤となる福島県の経済は、復興関連需要の増加等により企業収益や個人消費に持ち直しの動きがみられました。

このような環境下、当社グループでは、平成25年4月に株式会社郡山グランドホテル（以下、「郡山グランドホテル」という。）を完全子会社化し、また知名度・ブランド力の向上のためにテレビ・ラジオコマーシャル等によるプロモーション活動を行いました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は6,041百万円（前年同期比9.0%増）、営業利益は414百万円（同29.5%減）、経常利益は458百万円（同28.0%減）となりました。また、特別利益として主に負ののれん発生益209百万円を計上した結果、四半期純利益は566百万円（同154.4%増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであり、売上高については、セグメント間の内部売上高または振替高を除き表示しております。

なお、当社は、事業子会社の経営統括を主たる目的とする純粋持株会社であり、各連結子会社からの不動産賃貸料収入、経営管理料収入及び配当金を主たる収益としております。一方で、各セグメント（各連結子会社）の営業費用には、当社に対する不動産賃借料及び経営管理料が計上されております。

① 葬祭事業

当社グループが展開している営業エリアにおいて、死亡者数はほぼ前年並みに推移する中、同業他社との競争は厳しさを増しております。

このような状況の下、テレビコマーシャル、折込チラシ、終活をテーマとしたセミナー等、積極的な広告展開や営業推進を実施しました。また郡山グランドホテルの完全子会社化に伴い、福島県中地区の葬祭会館を3施設増やし営業基盤を強化しました。その結果、売上高は2,419百万円（前年同期比2.6%増）、営業利益は65百万円（同32.3%減）となりました。

② 石材卸売事業

当社グループが展開している営業エリアにおいて、震災後の墓石等の修復需要は落ち着きを見せております。

このような状況の下、販売数量が減少する中、高級石種の販売により売上増加を図りましたが、円安による仕入コストの上昇をカバーするには至りませんでした。その結果、売上高は1,094百万円（前年同期比5.2%増）、営業利益は113百万円（同22.1%減）となりました。

③ 石材小売事業

当社グループが展開している営業エリアにおいて、東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故により立ち入りが制限されていた区域等への滞在が一部可能となりました。墓石等の修繕需要が期待されましたが、需要は伸び悩みました。

このような状況の下、耐震構造墓石の提案を中心とした営業活動を行いました。受注の増加には至りませんでした。その結果、売上高は718百万円（前年同期比4.9%減）、営業利益は48百万円（同37.8%減）となりました。

④ 婚礼事業

当社グループが展開している営業エリアにおいて、婚礼施行は震災後の増勢基調が一段落し、平年時の水準に戻りました。

このような状況の下、郡山グランドホテルの完全子会社化に伴い、福島県郡山市の婚礼会場を1施設増やしました。また福島県福島市の婚礼会場のリニューアルやそれに伴う広告宣伝を強化し、来館者数の増加に努めました。その結果、売上高は1,550百万円（前年同期比36.7%増）、営業利益は69百万円（同37.3%減）となりました。

⑤ 生花事業

当社グループが展開している営業エリアにおいて、生花需要は横ばいで推移しました。

このような状況の下、山形県山形市に山形営業所を新設し売上増加を図りました。その結果、売上高は222百万円（前年同期比1.1%増）、営業利益は33百万円（同32.0%減）となりました。

⑥ 互助会事業

互助会事業につきましては、互助会代理店による会員募集活動の強化を行い、会員数の増加を図り、互助会を利用した葬儀及び婚礼施行の増加に努めました。その結果、売上高は5百万円（前年同期比4.4%増）、営業利益は5百万円（同73.1%減）となりました。

⑦ その他

その他の装販部門につきましては、主力商品である棺の販売本数と単価が増加しました。その結果、売上高は30百万円（前年同期比8.0%増）、営業損失は0百万円（前年同期は営業損失1百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ790百万円増加し4,371百万円となりました。これは主に郡山グランドホテルの完全子会社化等による現金及び預金の増加、売上高の増加による受取手形及び売掛金の増加等によるものです。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産は、前連結会計年度末に比べ4,969百万円増加し17,597百万円となりました。これは主に郡山グランドホテルの完全子会社化等による建物及び構築物の増加によるものです。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ291百万円増加し2,588百万円となりました。これは主に郡山グランドホテルの完全子会社化等による1年内返済予定の長期借入金の増加によるものです。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債は、前連結会計年度末に比べ4,499百万円増加し11,923百万円となりました。これは主に郡山グランドホテルの完全子会社化等による長期借入金の増加、前払式特定取引前受金の増加によるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ968百万円増加し7,456百万円となりました。これは主に郡山グランドホテルとの株式交換における資本剰余金の増加、四半期純利益566百万円に伴う利益剰余金の増加によるものです。

② キャッシュ・フローの分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額697百万円を含め、前連結会計年度末に比べ217百万円増加し1,340百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローで得られた資金は264百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益の計上668百万円、減価償却費275百万円、郡山グランドホテルとの株式交換における負ののれん発生益209百万円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローで使用した資金は387百万円となりました。これは主に、定期預金の預入による支出502百万円、有形固定資産の取得による支出426百万円、固定資産の除却による支出111百万円、定期預金の払戻による収入638百万円、営業保証金の回収による収入45百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローで使用した資金は357百万円となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出929百万円、長期借入による収入610百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成25年5月15日の「平成25年3月期 決算短信」で公表しました通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、株式会社郡山グランドホテルを株式交換により完全子会社化したため、株式会社郡山グランドホテル及びその子会社2社（株式会社互助システムサークル、株式会社川島）を連結の範囲に含めております。

第1四半期連結会計期間より、新たに設立したこころガーデン株式会社を連結の範囲に含めております。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,281,660	2,642,375
受取手形及び売掛金	717,522	886,844
有価証券	—	99,949
商品及び製品	327,228	347,912
仕掛品	37,830	34,977
原材料及び貯蔵品	17,238	16,301
その他	259,824	417,159
貸倒引当金	△61,075	△74,491
流動資産合計	3,580,230	4,371,028
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,012,620	7,084,497
土地	3,777,146	5,074,151
その他（純額）	127,599	331,101
有形固定資産合計	8,917,366	12,489,750
無形固定資産		
のれん	116,824	112,151
その他	30,364	41,070
無形固定資産合計	147,188	153,221
投資その他の資産		
投資有価証券	2,178,368	2,879,131
営業保証金	611,858	566,824
その他	828,686	1,586,626
貸倒引当金	△54,604	△77,580
投資その他の資産合計	3,564,308	4,955,001
固定資産合計	12,628,863	17,597,973
資産合計	16,209,094	21,969,001

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	369,018	381,875
短期借入金	480,000	520,000
1年内返済予定の長期借入金	484,324	847,416
未払法人税等	109,729	58,164
賞与引当金	168,829	159,264
資産除去債務	1,992	—
その他	682,534	621,675
流動負債合計	2,296,428	2,588,397
固定負債		
長期借入金	2,003,989	3,232,230
退職給付引当金	—	13,449
前受金復活損失引当金	19,603	21,823
資産除去債務	112,868	114,068
負ののれん	154,913	148,716
前払式特定取引前受金	4,887,082	8,076,431
その他	245,411	316,900
固定負債合計	7,423,866	11,923,619
負債合計	9,720,295	14,512,016
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,658	500,658
資本剰余金	1,620,512	2,033,012
利益剰余金	4,331,620	4,845,208
自己株式	△46	△46
株主資本合計	6,452,746	7,378,833
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,096	14,608
為替換算調整勘定	20,955	63,542
その他の包括利益累計額合計	36,052	78,151
純資産合計	6,488,798	7,456,985
負債純資産合計	16,209,094	21,969,001

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	5,542,285	6,041,537
売上原価	3,650,155	4,095,674
売上総利益	1,892,129	1,945,863
販売費及び一般管理費		
貸倒引当金繰入額	4,375	14,529
給料及び賞与	477,302	528,410
賞与引当金繰入額	108,226	95,590
退職給付費用	17,613	18,625
その他	696,010	873,789
販売費及び一般管理費合計	1,303,527	1,530,945
営業利益	588,602	414,917
営業外収益		
受取利息	17,649	18,584
受取配当金	1,937	1,871
負ののれん償却額	6,196	6,196
持分法による投資利益	1,596	—
掛金解約手数料	11,576	21,524
その他	51,846	45,073
営業外収益合計	90,803	93,250
営業外費用		
支払利息	25,630	37,762
持分法による投資損失	—	1,278
前受金復活損失引当金繰入額	3,724	1,084
その他	13,638	9,823
営業外費用合計	42,993	49,948
経常利益	636,412	458,220
特別利益		
固定資産売却益	1,170	165
投資有価証券売却益	—	799
負ののれん発生益	—	209,115
受取補償金	327,696	8,907
その他	—	22,921
特別利益合計	328,867	241,908
特別損失		
固定資産除却損	717	31,677
減損損失	421,041	—
のれん減損損失	26,812	—
投資有価証券売却損	—	61
投資有価証券評価損	678	—
店舗閉鎖損失引当金繰入額	68,380	—
その他	—	168
特別損失合計	517,630	31,907
税金等調整前四半期純利益	447,649	668,221
法人税、住民税及び事業税	336,961	54,874
法人税等調整額	△112,094	46,614
法人税等合計	224,866	101,488
少数株主損益調整前四半期純利益	222,782	566,733
四半期純利益	222,782	566,733

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	222,782	566,733
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△16,476	△488
持分法適用会社に対する持分相当額	3,861	42,587
その他の包括利益合計	△12,615	42,099
四半期包括利益	210,167	608,832
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	210,167	608,832
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	447,649	668,221
減価償却費	183,345	275,207
減損損失	421,041	—
のれん減損損失	26,812	—
のれん償却額	5,724	4,813
負ののれん償却額	△6,196	△6,196
負ののれん発生益	—	△209,115
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△8,517	10,716
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,043	△16,408
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△2,919	1,221
前受金復活損失引当金の増減額 (△は減少)	△1,060	△6,347
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	68,380	—
受取利息及び受取配当金	△19,587	△20,456
支払利息	25,630	37,762
為替差損益 (△は益)	13,065	83
通貨オプション評価損益 (△は益)	△12,160	—
持分法による投資損益 (△は益)	△1,596	1,278
保険解約返戻金	—	△17,347
固定資産売却損益 (△は益)	△1,170	△165
固定資産除却損	717	31,677
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△738
投資有価証券評価損益 (△は益)	678	—
受取補償金	△327,696	△8,907
売上債権の増減額 (△は増加)	△87,490	△146,437
たな卸資産の増減額 (△は増加)	91,578	19,001
未収消費税等の増減額 (△は増加)	2,078	△2,852
仕入債務の増減額 (△は減少)	△6,108	△26,235
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△36,738	△7,748
前払式特定取引前受金の増減額 (△は減少)	30,637	△5,042
その他	2,836	△120,725
小計	809,975	455,260
利息及び配当金の受取額	6,574	9,024
保険解約返戻金の受取額	23,144	17,347
利息の支払額	△24,805	△37,966
補償金の受取額	327,696	8,907
法人税等の支払額	△377,575	△188,091
営業活動によるキャッシュ・フロー	765,009	264,481

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△637,000	△502,000
定期預金の払戻による収入	741,000	638,000
有形固定資産の取得による支出	△125,504	△426,738
有形固定資産の売却による収入	1,687	172
無形固定資産の取得による支出	△1,220	△142
固定資産の除却による支出	—	△111,580
投資有価証券の取得による支出	△18,585	△49,982
投資有価証券の売却による収入	260	2,883
投資有価証券の償還による収入	—	30,000
貸付金の回収による収入	8,565	5,852
営業保証金の差入による支出	—	△922
営業保証金の回収による収入	36,885	45,128
その他	△5,303	△18,073
投資活動によるキャッシュ・フロー	785	△387,402
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△210,000	40,000
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△10,752	△24,195
長期借入れによる収入	—	610,000
長期借入金の返済による支出	△737,024	△929,976
株式の発行による収入	479,414	—
自己株式の取得による支出	△46	—
配当金の支払額	△37,257	△52,987
財務活動によるキャッシュ・フロー	△515,666	△357,159
現金及び現金同等物に係る換算差額	△13,065	△83
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	237,064	△480,163
現金及び現金同等物の期首残高	1,131,459	1,122,660
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	697,558
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,368,524	1,340,055

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、平成25年4月1日を効力発生日とした株式会社郡山グランドホテルを完全子会社とする株式交換に際し、新たに普通株式300,000株を発行し割当交付いたしました。これに伴い、当第2四半期連結会計期間末において資本剰余金が412,500千円増加し、2,033,012千円となっております。

（セグメント情報等）

I 前第2四半期連結累計期間（自平成24年4月1日至平成24年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	葬祭事業	石材卸売 事業	石材小売 事業	婚礼事業	生花事業	互助会 事業	計				
売上高											
外部顧客への 売上高	2,358,002	1,040,576	755,077	1,133,997	220,323	4,976	5,512,952	27,790	5,540,743	1,542	5,542,285
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	945	155,878	17,000	115,824	195,551	190,600	675,799	33,391	709,190	△709,190	—
計	2,358,947	1,196,454	772,077	1,249,821	415,875	195,576	6,188,751	61,182	6,249,934	△707,648	5,542,285
セグメント利益 又は損失(△)	96,878	145,938	78,220	110,535	49,204	20,103	500,880	△1,712	499,168	89,434	588,602

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントである装販部門であります。

2 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高の調整額は、持株会社である当社の不動産収入であります。

(2) セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社利益421,513千円、各報告セグメントからの受取配当金の消去額△330,000千円、セグメント間取引消去5,741千円、のれん償却額△4,922千円、その他の調整額が△2,897千円であります。なお、全社利益は、当社の主たる収益である各連結子会社からの経営管理料収入及び不動産賃貸料収入等によって生じた利益であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失及びのれんの金額の重要な変動）

婚礼事業の総合結婚式場「SP VILLAS サンパレス会津」の閉鎖決定に伴い、「互助会事業」セグメントにおいて減損損失を418,053千円、「婚礼事業」セグメントにおいて減損損失を2,987千円計上しております。また、報告セグメントに配分されていないのれん減損損失を26,812千円計上しております。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	葬祭事業	石材卸売 事業	石材小売 事業	婚礼事業	生花事業	互助会 事業	計				
売上高											
外部顧客への 売上高	2,419,160	1,094,533	718,135	1,550,246	222,714	5,196	6,009,988	30,006	6,039,994	1,542	6,041,537
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	9,155	197,818	7,069	95,493	194,040	199,262	702,840	40,298	743,138	△743,138	—
計	2,428,316	1,292,351	725,205	1,645,740	416,755	204,458	6,712,828	70,304	6,783,133	△741,595	6,041,537
セグメント利益 又は損失(△)	65,565	113,734	48,654	69,261	33,473	5,401	336,090	△977	335,113	79,804	414,917

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントである装販部門及び介護事業であります。

2 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高の調整額は、持株会社である当社の不動産収入であります。

(2) セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社利益487,168千円、各報告セグメントからの受取配当金の消去額△400,000千円、セグメント間取引消去4,470千円、のれん償却額△4,011千円、その他の調整額が△7,823千円であります。なお、全社利益は、当社の主たる収益である各連結子会社からの経営管理料収入及び不動産賃貸料収入等によって生じた利益であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間より、株式会社郡山グランドホテルを完全子会社とする株式交換に伴い、婚礼事業及び互助会事業の資産の金額が著しく変動しております。前連結会計年度の末日に比べ、当第2四半期連結会計期間末の報告セグメントの資産の金額は、婚礼事業4,245,163千円、互助会事業3,193,201千円がそれぞれ増加しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、株式会社郡山グランドホテルを完全子会社とする株式交換に伴い、同社を婚礼事業、同社の子会社である株式会社互助システムサークルを互助会事業及び葬祭事業に含めております。

4. 施行件数の状況

当社グループのセグメントのうち主な事業である葬祭事業及び婚礼事業に係る葬儀、婚礼施行件数の当第2四半期連結累計期間における状況は次のとおりであります。

(1) 葬祭事業

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
	葬儀施行件数 (件)
福島事業部	518 (-)
郡山事業部	107 (62)
会津事業部	221 (-)
催事事業部	976 (-)
合計	1,822 (62)

(注) 1 催事事業部における葬儀施行件数は、株式会社J Aライフクリエイト福島との業務受託契約による施行件数であります。

2 施行件数の () は、株式会社郡山グランドホテルの完全子会社化に伴い、同社の子会社である株式会社互助システムサークルにおける葬儀施行件数を内書きしております。

(2) 婚礼事業

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
	婚礼施行件数 (件)
福島事業部	135 (-)
会津事業部	61 (-)
郡山事業部	192 (126)
合計	388 (126)

(注) 施行件数の () は、株式会社郡山グランドホテルの完全子会社化に伴い、同社における婚礼施行件数を内書きしております。